

2022年度
事業計画書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月 31日

① 清風荘 事業計画	・・・・・・・・・・	p1
② さわの風 事業計画	・・・・・・・・・・	p2
③ やまゆりの里 事業計画	・・・・・・・・・・	p3
④ じゅらく 事業計画	・・・・・・・・・・	p4
⑤ 清湖園 事業計画	・・・・・・・・・・	p5
⑥ ほろん 事業計画	・・・・・・・・・・	p6
⑦ 法人事務センター 事業計画	・・・・・・・・・・	p7~8

2022年度 清風荘拠点 事業計画

定員：施設入所 90名・短期入所 20名

昨年の介護報酬改定に伴う指定基準の改正において感染症対策の強化、新型コロナウイルス感染症発生時や自然災害発生時の事業継続計画（BCP）の策定、災害への地域等。どのような場合であっても利用者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制の構築や認知症の人の尊厳の保障を実現していく観点から認知症対応力向上の促進や看取りへの対応充実が求められている。

しかし、介護人材の確保は、厳しい状況ではあるが採用した人材や今いる職員の育成・定着・離職防止の取り組みを行うことで利用者一人一人の意思を尊重した支援に努めることに繋がる。

また、在宅サービスにおいては、独居や老老介護の高齢者世帯が増加し、「住み慣れた地域で最後まで自分らしい暮らしを送りたい」との思いに応えるためにも地域にとって「無くてはならない、当てにされる」事業展開をしていくために下記の重点項目に取り組んでいく。

基本理念

やさしさと 笑顔 まごころで なごやかに 憩い うるおう しあわせな暮らし

基本活動方針

“❤️好きです！ゆたか会”をスローガンに「利用者も職員も幸せになれるように」「働きやすい職場づくり」に向けて ・相手の気持ちを考えて関わっていきこう ・時間があったら隣に座ろう

1. サービスの質向上

- ①防災対策（BCP）委員会と連携し、災害時におけるBCP訓練を実施し、施設機能強化（事業継続）を清湖園、関係機関、地域住民と共に確立する。職員への連絡体制をSNSも利用し、強化する
- ②新任職員や外国人のOJTは、手順書をもとに介護技術指導担当者が中心となり職員育成に当たる
- ③限られた職員配置の中で利用者へのケアは、グループ単位からフロア単位で行う
- ④利用者、家族と共に実現可能なケアプランを作成し、ケアの提供に取り組む
- ⑤素材の味を活かした昔懐かしい食事、体調や看取り期等の状況に即応できる食事の提供
- ⑥看取りケアは、家族の協力や多職種連携により利用者の意思に沿ったケアで最期まで寄り添う
- ⑦引き続き、介護の業務手順書の見直し、標準化することで誰もが同じケア提供に努める
- ⑧利用者への安心・安全なケアを提供するため高齢者虐待防止の推進とリスクマネジメントを強化する
- ⑨サービス自己評価の課題を検討し、実施する
- ⑩義務付けとなる認知症介護基礎研修の受講等を推進する
- ⑪「目標管理活動、3S活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

2. 財政基盤の安定と設備改修

- ①借入金返済や定員変更もあるが収益の確保に向け、計画的かつ効率的な事業運営を行う
目標稼働率：入所96% 短期入所80%
- ②目標稼働率に到達できる仕組みと持続可能な収支バランスを考える経営会議を役職者で編成する
- ③稼働率や予算の執行状況を定期的に職員と共有し、経費節減に努める
- ④各種加算取得の再検討をする

3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①介護職員の身体的負担軽減と利用者への安全性の確保のため機器の導入と介護ロボット・ICT検討
- ②経営協WE B経営診断の組織風土診断を実施し、職場環境に対する意識のギャップを把握する
- ③職員のメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ④ワークライフバランスに配慮した人材確保と働き方改革の推進
- ⑤法人窓口担当者と共にハラスメント防止の徹底に努める

4. 地域における公益的な取り組み

- ①地域共生社会の実現に向けた地域の拠点としての役割を果たす
- ②子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清湖園と共に行う

2022年度 さわの風 事業計画

定員（登録）：施設入所 29 名・短期入所 1 名 小規模多機能 21 名

新型コロナウイルスの蔓延により利用者の生活が大きく制限を受けることになった。その中で、ご家族への情報発信やコミュニケーション方法の見直しをおこない、会えていない事による不安の解消を図る。また、全体での行事が中止となり、季節感を感じる機会が減少している。感染症対策をおこないながら、小さな規模でも利用者への楽しみを提供し続けたい。小規模施設であることを生かし、家族と利用者の繋がりを重視した個別ケアを実施し家族との関係を継続する。また地域の中の施設として、地域づくりという役割を全うすべく、課題の把握とさわの風の役割を探りながら、住民との交流を積極的に行う。

「住み慣れた家で、顔馴染みのいる地域で暮らしたいそんなささやかな願いを大切にしたい」

基本理念

一人一人の利用者の個性を尊重し、心のこもった介護を目指す。利用者を中心とした支援を清潔で安全な環境の中で行い、「ここでよかった」と感じていただける施設づくりをする。

基本方針

“好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。笑顔で挨拶し良い雰囲気づくりに努める。互いを思いやる気持ちを持ち、認め合い安心感のある職場環境を作る。

1. 感染対策強化

昨年度に引き続き、検温・うがい・手洗い・消毒の徹底、マスクの着用を励行し、コロナ、その他の感染症予防に努めていく。また、看護師、感染症委員会とも連携し、感染症予防と対策の研修を定期的に行う。

2. サービスの質の向上

- ① 災害時における連携の為、地域の防災訓練への参加や、地域住民に当施設での避難訓練に参加してもらうことで災害時の連携体制を整える。職員への連絡体制をSNSも利用する
- ② 介護手順マニュアルの見直しを継続し、統一した方法での支援を行う。
- ③ 認知症の理解を深め、利用者の尊厳を守る。その人らしく暮らしていける支援を行う。
勉強会の開催、研修への積極的な参加に努める。接し方・対応の仕方が認知症ケアで大切であることを認識し、常に安心感を与える対応を徹底する。
- ④ 本人・家族が望む人生の最後を一緒に寄り添い看取ることができるよう支援していく。また、看取り後のカンファレンスや施設内研修を実施することで職員の精神的な負担の軽減を図り質の向上に努める。医療的ケア（喀痰吸引等研修）も引き続き受講をすすめ、安楽に過ごせる環境の整備に努める。
- ⑤ 食べる楽しみを持ち続けていただけるような食事の提供をフードサービス係と連携し行う。
- ⑥ 各ユニットの目標に対して目標管理活動を通して達成を目指す。
(ア) 介護福祉士・介護支援専門員などの資格取得に向け、積極的に受験をすすめ支援する。

3 財務基盤の安定

- ① 健康管理の充実とスムーズな入所支援を行い特養の稼働率96%、空床利用を行い短期入所の稼働率90%、小規模多機能においては登録定員（21名）に対する登録者数100%を目指し、安定した収入に繋げる。
- ② 経費削減意識を持ち、無駄をなくす。

4 地域福祉と地域貢献

- ① 対象の利用者だけではなく世帯丸ごと支えることが求められる中、小規模多機能で受け止められるように質の向上を図る。
- ② 運営推進会議を2ヶ月に1回（偶数月）開催し地域ニーズを把握する。
- ③ 高島市、高島市社会福祉協議会との連携し子供の居場所づくりとして「フリースペースさわのそよ風」の提供を継続して行う。

2022年度 やまゆりの里拠点 事業計画

(定員：小規模特養 30 床・短期入所 6 床・通所 18 名・居宅・訪問(休止))

(定員：地域密着型小規模特養 20 床・短期入所 2 床)

—昨年から続く新型コロナウイルス感染症によって、これまで積極的に実施してきた施設行事を含め地域との交流が難しく制限された状況となっている。また、介護人材の不足する厳しい状況であるが「暮らしを守る」仕事として誠実に使命を果たしていかなければならない。ご利用者が安心して楽しく日々の生活を送っていただけるように、これまで以上にチームワークを強化して昨年に続き「感染症や災害への対応力強化」「地域包括ケアシステムの推進」「制度の安定性・持続可能性の確保」などに取り組む。

また、厳しい介護人材確保に向けて努力をすると共に、地域福祉の拠点として、他職種・他機関との連携を惜しまず「あてにされる施設・あたたかい施設」をめざして今年度も各事業を展開する。

最後に、平成30年4月に高島市の指定管理者として更新し基本協定を締結してから、今年度はその最終年度にあたる。法人本部、法人各拠点施設と連携を図りながら、高島市との協議を実施していく。

基本理念

「美しいところで 安心して 楽しく暮らせるように・・・」その担い手として、地域住民に公平に接し、絶えず人権尊重の理念に基づいた質の高い福祉サービスを提供する。

基本活動方針

“好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」「笑顔・言葉づかい・まなざし・思いやる・聴く”を念頭に温かい施設をつくる。

1. サービスの質の向上のために

- ① 市場地域の防災訓練の参加をはじめとし地域との連携を密に災害対策の強化に努める。職員への連絡体制をSNSも利用する
- ② 認知症の理解を深め、利用者一人一人と向き合い関わり合う時間を持ち共有を図る。
- ③ 「高齢者虐待防止」「リスクマネジメント」をはじめとし、各種委員会活動の推進。
- ④ 家族と共に「あたたかい終末ケア」を考える。皆が「よかった」と思える看取りケアを実践する。
- ⑤ 利用者、職員共に楽しめる行事の実施と季節感のある食の提供で四季を感じていただく。
- ⑥ 安全対策担当者の選任により BCP の策定、感染症予防を始め安全対策の構築に努める。
- ⑦ 地域密着型運営推進会議（特養・隔月、DS・年2回）を開催。開かれた施設運営に努める。

2. 財務基盤の安定を図るために

- ① 迅速かつ適切な対応で各事業の利用率の向上を図る。（目標値:特養 97%・SS70%・DS60%）
- ② 栄養ケアマネジメント強化加算取得に向けて取り組む。その他加算から収入に繋がるよう検証。
- ③ 「入りを計り出を制す」の意識をもって計画的で安定した経営に努める。
- ④ 老朽化する施設設備を含めて、指定管理者として高島市との協議を継続する。

3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ① 「人を大切に、個を活かす」を目的とした面接と座談会を実施する。
- ② 話しやすく、相談しやすく、認め合える職場環境を目指し「いいね！ボード」を活用する。
- ③ エビデンスに基づいた職員処遇の向上とキャリアパスの構築に努める。
- ④ ワークライフバランスと多様な就労形態による職員定着と人材確保を目指す。

4. 地域福祉と地域貢献

- ① 「チームくつき」のメンバーとして、朽木地域の包括ネットワークに協力する。

2022年度 ケアハウスじゅらく 事業計画

定員：20名（内2人部屋1室）

ケアハウスじゅらくは開設22年を経過し、入居者の高齢化や重度化が進み、在宅福祉サービスを利用しながら概ね自立した生活をされている。しかし、新型コロナウイルス感染症防止のため、外出制限を余儀なく行っている。なお、現在の待機者は、地域で独居生活をされている方やご夫婦での入居希望がある。しかし、直ぐに入居希望ではなく将来に向けて入所申込をされている方が増えつつある。

第二の人生の住まいの場として入居後も住み慣れた地域や顔馴染みの関係で、安心・安全・豊かな生活の場となるよう自らサービスを選択し、「身体的自立」、「精神的自立」、「社会関係の維持・拡大」の三本柱を基本とし総合的に援助が出来るよう事業を実施する。

基本理念

自立した生活の充実、ゆとりのある暮らし、安心して暮らせる生活

基本方針

 “好きです！ゆたか会”をスローガンに

- ・入居者の自主性、自立性を尊重し、一人ひとりの生活を支えるケアを提供する
- ・生活しやすい居住空間、地域との結びつきを大切にする
- ・入居者の趣味・教養・娯楽等への協力と支援を図る

1. サービスの質の向上

- ①長引くコロナ禍において入居者のプライバシーに配慮しながら可能な範囲で社会参加、地域との交流を促進する
- ②生活する上でのサポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと“命のバトン”の継続ならびに在宅福祉サービスの利用と入居者の医療対応や状態にあわせて包括的に特養清風荘の支援を継続する
- ③定期的に運営懇談会を実施し、入居者の意見や要望を反映した運営に努める
- ④認知症予防のための余暇活動や臨床心理士の面接によるセラピー、理学療法士による健康体操等専門家との連携を図る
- ⑤要介護の入居者に転倒防止の「居住環境のチェック」の実施と検証ならびに助言を継続する
- ⑥防災対策（BCP）委員会と連携し、災害時における訓練を実施し、施設機能強化（事業継続）を清湖園、関係機関、地域住民と共に確立する。職員への連絡体制をSNSも利用し、強化する
- ⑦目標管理活動、3S活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

2. 財務基盤の安定と設備改修

- ①予算の執行状況を共有化するために事務センターと連携を図る
- ②経年劣化にともなう循環風呂の修理をする
- ②日々の経費節減に努める

3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①職員の負担軽減をするためのメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ②経営協WE B経営診断の組織風土診断を実施し、職場環境に対する意識のギャップを把握する
- ③ワークライフバランスに配慮した職場環境を推進する
- ④職員が働きやすい職場は、利用者が安心して楽しく過ごせる場であることを常に意識する

4. 地域福祉と地域貢献

- ①地域との共催行事や活動への参加を積極的に行う

2022年度 清湖園 事業計画

定員：施設入所60名・生活介護40名・短期入所4名・日中一時3名

【取り巻く環境】利用者は高齢・重度化による身体機能の低下が進み、日常生活の中で介護・医療等、様々な支援の必要な方が増えており、待機されている方も重度な医療的ケアを必要とされる方が増えてきている。そのような中、利用者及び身元引受人の高齢化や世代交代が進み、「親亡き後」に備えての地域生活支援拠点等の整備と市内他法人との連携も求められている。利用者の重度化や高齢化、緊急時の受入れ等効果的にサービス提供を行うためにも必要な人材確保や適正な配置を行い地域から「信頼される施設づくり」を目指し、前年度から清湖園中長期計画をもとに法人内の障がい福祉拠点連携を推進するため、ほろん拠点と定期的に会議を今年度においても継続して行っていく。

基本理念

重度障害児者の支援施設として「その人らしい生活の支援」の実現をめざす

【重度障害児者の支援施設として、在宅生活支援（地域）のニーズに応えます】

【利用者の意思をくみ取りながら人権侵害等に繋がらないよう取り組みます】

基本活動方針

“好きです！ゆたか会”をテーマに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む

「障がい特性の理解」「安心安全なくらし」

1. サービスの質の向上

- ①「誰一人取り残さない防災の実現を目指す」を具体的にしていくため、清風荘拠点と連携し災害時におけるBCP訓練の実施、施設機能強化を図る。職員への連絡体制をSNSも利用する
- ②虐待防止委員会での自己チェックや職員一人一人の支援の振り返りを通して意識の徹底と周知を行う。
- ③身体的介護や医療ケアの必要性の高い利用者が増加のため、医療・介護の基礎知識や支援スキルの向上を図る。
- ④転倒・転落アセスメント等により、リスクマネジメントを強化し利用者個々の状態に応じた適切な支援を行う。

【施設生活での最大の喜びは食事であり、食の安全と楽しい食事に努める。】

【多職種連携で利用者の意向に沿った栄養支援を行うため「栄養マネジメント」の取組を行う】

- ⑤法人フードサービス係と食事に関する委員会・食事支援係の連携を図り、協同しながらの取組を行う。
- ⑥現在行っている行事食、嗜好食事、喫茶、お菓子作りなど「食」の楽しみの提供を継続して取り組む。
- ⑦利用者の健康への配慮の徹底化を図りながら医療的支援行為の必要な方への対応力も高めていく。
- ⑧常に利用者の理解を得ながら支援の見直しを行い、「量から質」へのサービス提供を行う。

2. 財務基盤の安定

- ①稼働率（収支等）状況の説明、適切な予算執行や水道光熱費等の経費節減に施設一丸となり取り組む。
- ②入所定員充足の維持に努めながら、短期入所の利用を緊急対応も含め積極的に受け入れる。
*目標稼働率：施設入所 92% 生活介護 100% 短期入所 90%
- ③安全と安心に配慮し介護職員の身体的負担軽減のため浴室の改修工事等の具現化を行う。

3. 働き甲斐のある職場の実現

- ①働き方改革を進めるために、業務の効率化・適切な勤務時間を把握しながら、有給休暇取得の取組を継続
- ②ホウ・レン・ソウの徹底により風通しの良い職場づくりを目指す。チームで支援する意識の向上を図る
- ③チーム・組織力向上のためリーダーを中心とした組織編制を行い次世代育成を行っていく。

4. 地域における公益的な取組の実施

- ①地域生活支援拠点等整備に向け、ほろん拠点と連携し緊急時の迅速・確実な支援の実施と短期入所の活用
- ②障害者雇用の促進に継続して取り組む。
- ③子どもの居場所づくりとして「フリースペースの提供」を清風荘拠点と共に行う。
- ④専門職である作業療法士、音楽療法士の地域支援活動（派遣）を行う。

2022年度 湖西総合在宅サービスセンターほろん 事業計画

事業名：就労継続支援B型（定員14名）、就労移行支援（定員6名）、生活介護（定員20名）
就労定着支援、訪問介護、居宅介護支援、計画相談、社会参加、働き・暮らし応援センター

少子高齢化への不安とともに、重なり合う課題を抱える世帯や、制度の挟間にあり支援が受けられない人等、社会的孤立や生活困窮の問題が広がってきています。長引くコロナの影響により、このような課題は急速に増加するとも予測されます。そういった課題に対し、ほろんの各事業の連携の強化はもちろん、地域におけるネットワークづくりに力を入れていきます。

新規事業である『生活介護』では、「外に出たい」「働きたい」という希望を持たれている方に対して、ほろんの持つ機能を活用した社会参加ができる場所の一つです。ネットワークの一つとして、「はたらく」支援を魅力として発信し、事業を安定させます。そして、様々な面からしんどさを抱えておられる方たちが立ち寄る「居場所」がほろんの中にあり、早期につながる体制を整えていきます。

基本理念

仕事や活動を通じ、いつまでも意欲を持って、生きがいとやりがいのある、その人らしい生活が送れるよう支援をする。

基本活動方針

“❤️好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に向けて。
ほろんテーマ『すべての壁をとっばらえ！！』
活動方針「認め合い」「助け合い」「感謝の気持ち」

- 1、各事業の理解をし、互いに意見を出し合い、個々の意見を大切にする。
- 2、所属する事業以外のことも考え、助け合える職場作りを目指す。
- 3、笑顔で「ありがとう」といえる職場環境をつくる。

1. サービスの質の向上

- ①感染症や非常災害発生時においても必要な支援ができるよう、業務継続計画を作成する。職員への連絡体制をSNSも利用する。
- ②困難事例に対して、事業枠を越えた相談や会議への参加を行う。自分の管轄外、専門外でも、少しでも理解、興味を持ち受け止める姿勢をもち、ネットワークを広げる取り組みを行う。
- ③要望やヒヤリハットなど小さな気づきを大切に、各種委員会に結び付ける。
- ④各事業の業務マニュアルを整備し、それをもとにOJTを実施し職員の育成をはかる。
- ⑤虐待防止委員会を中心に研修など啓発を強化し、虐待防止の更なる推進を行う。
- ⑥介護技術や相談援助について研修を通じ振り返り、技術や知識を向上させ必要な自立を支援する。

2. 財務基盤の安定と事業継続のための取り組み

各事業目標値：就労継続支援B型平均工賃18,000円・就労移行支援稼働率70%・生活介護契約者5名・計画相談加算（サービス提供時モニタリング）90%・ホームヘルプ実人数 老人47名、障がい20名・居宅介護支援ケアマネ一人につき要介護35名、要支援6名の担当。

- ①わーくる夢における事業の数年後を見据え、新たな取り組みやそれに伴う建物の改修などを検討していく。
- ②介護報酬における加算の算定に目を向け、資格の取得や体制の整備を行う。

3. 働き甲斐のある職場の実現

- ①朝礼や月例会を活用し、正しい情報を速やかに発信し共有する。月例会においては研修会や研修報告を行い、職員参加の場を設定する。
- ②相談窓口の活用、日常的な声掛けや職員面談など、職員が話しやすい環境づくりに努める。
- ③ワーク・ライフバランスの推進、メンタルヘルスに配慮し、職員の健康とモチベーションの向上を図る。
- ④個人目標を具体的に、情報提供や研修参加など「目指したい自分」を応援する体制づくりを行う。

4. 地域における公益的な取り組みに向けて

- ①災害時における個別避難計画を住民や関係機関と一緒に作り上げていく。
- ②地域サロンへ継続して参加し、関係を深めるとともに地域が求めていることに耳を傾ける。
- ③自分の仕事の中の、少しでも地域に使う意識をもつ。

2022年度 法人事務センター事業実施計画

法人経営のガバナンスの強化を一層図り、法人5拠点の事業運営がより円滑に行えるようバックアップを行うとともに、介護人材不足に伴う事業運営難ならびに物価上昇等への課題克服に向けて主体的に取り組んでいく。

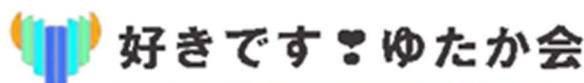
重点課題としては、「魅力あるゆたか会づくり」のため、人材の確保、業務省力化、財務規律と財務分析を柱に下記の重点実施7項目とする。

1. “ 好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。
 二事務活動方針＝
 ～我々の存在意義を考え共有・協働・共感する～
 - ・さまざまなニーズへの対応力を（スタッフ個々の専門性の向上に努める）
 - ・情報共有を活性化し創造的な関わり（相互理解と相互連携の精神で協働する）
 - ・職員の頑張り笑顔（SNSを最大限に活用）
2. 安定した人材確保と人材定着のため、地域との連携・人との繋がりを大切に、SNS等を有効活用し法人や地域の魅力・強みを積極的に発信していく。また、外国人介護人材の活用を有効かつ継続的に行えるよう関係機関との連携を強化する。
3. IT管理を確実に実行するとともに、ICT基盤の整備、業務省力化を促進させていく。また、研修委員会との連携を強化し、サービスの質の確保と安心して働ける環境づくりを図る。
4. 防災対策（BCP）委員会と連携し、BCP計画に沿った防災訓練（避難訓練、炊出し訓練、防災教育）を実施する。また、SNSを活用した情報発信と連絡体制の強化を図る。
5. フードサービス
 安心安全でおいしい食の提供を基本に、介護報酬改定に対応した管理栄養士体制を構築する。また、物価上昇に対応するため業務改善・業務省力化・業務標準化を一層図る。
6. 中期計画（修繕計画）をもとに、大規模修繕等の優先順位を常に評価し、計画的な資金運用のもと施設の維持管理にあたる。
7. 設備資金借入金の償還（さわの風・清湖園・ほろんの建設分、清風荘改修分）が遅滞なく行えるよう資金計画を進める。

設備資金借入金残高

（単位：円）

借入償還拠点	清風荘	さわの風	清湖園	ほろん	法人全体
借入金額	40,000,000	200,000,000	80,000,000	70,000,000	390,000,000
借入期間	2021.12～2026.12 (5年間)	2011.7.12～2036.7.10 (25年間)	2005.9.12～2025.9.10 (20年間)	2015.10.16～2040.10.10 (25年間)	
2022年度元金償還額	8,004,000	9,048,000	3,990,000	2,844,000	23,886,000
2022年度期末借入残高	29,995,000	120,640,000	11,970,000	50,007,000	212,612,000



2022年度 法人事務センターフードサービス係 事業実施計画

“安心安全でおいしい食事の提供”を基本方針とし、ご利用者においしい料理を作り楽しい食事を演出すると共に、ご利用者に寄り添った栄養ケアを多職種連携で行っていく。

引き続き、感染症や災害等による非常時の備えと事業継続に向けた取り組みを行い、対応力強化を図る。また、物価上昇に対応するため業務改善、業務省力化、業務標準化を一層図る。

1. おいしい食事の取り組み

- ① 行事食や面前調理、喫茶、お菓子作りなど、季節感のある暮らしの潤いとなる食を提供する。感染症対策をとり、多職種協同で楽しんでいただく。
- ② 社会情勢を踏まえ、施設の特色やニーズに応えられるようサービスを提案していく。

2. 栄養ケア・マネジメント（Nutrition Care and Management：NCM）の充実

- ① ご利用者に寄り添った NCM の強化
食事の際に変化を把握し、問題がある場合は早期に対応できるよう、ご利用者との日常的な関わりを大切に、他職種と連携して行う。
- ② 看取りケアの充実
NCM の強化により、最期まで自分らしく過ごしていただけるよう、特別なものではなく自然な形に近づくよう取り組んでいく。

3. 栄養管理と給食管理の体制づくりと業務の効率化

新人栄養士の指導と栄養士間の役割分担、業務の効率化を含めた連携体制を整備し、栄養マネジメント強化加算他、加算の取得や障害福祉の NCM 導入の体制を構築する。

4. 厨房業務・衛生管理の標準化

- ① HACCP 制度化（義務化）に対応した衛生管理計画を実施、各拠点の衛生管理記録を適切に行う。衛生研修会等で定期的に見直し業務手順書の改正を継続する。
- ② 各拠点の給食業務マニュアルの随時改定と定期的な見直しを継続する。

5. リスク管理

事故を防いで安心安全を守るため、ヒヤリハットノートで情報共有の習慣化ができていく。蓄積した事例を事故報告と合わせて分析し、リスクを低減させる。

6. 感染症や災害時（非常時）の備えと事業継続に向けた取り組み

- ① 感染症や食中毒発生時の様々な状況を想定した段階的なマニュアル整備の継続。
感染者が発生した場合、調理従事者の欠員補充が困難な場合や消毒対応で厨房が使用できない場合、代替食等の対応措置ができるよう体制を整備しておく。
- ② 防災対策の一環として災害時の食糧を確保し、必要な時に役立つものにする。

7. 給食に係る経費の削減

食材、食数、発注量・業者、調理・提供方法等を見直し、業務省力化と経費削減を図る。